

# 普及指導員調査研究報告書

所属名：農林総合技術センター農業研修部  
 担当者名：白石 千穂

課題名	イチゴ「かおり野」のネイキッド培地を活用した育苗法が収量に及ぼす影響							
1	調査研究チームの構成 白石 千穂							
2	課題の目的 イチゴの生産では、高単価が期待できる年内に出荷割合を増やすことが収益を得る重要なポイントであり、昨年から山口県では、極早生の「かおり野」が導入されている。「かおり野」は、11月中旬から収穫が始まるが、さらに収穫日を早めることで、より年内収量を増加させることができるのではないかと考えた。 そこで、「かおり野」の育苗資材として、気化熱により地温を低下させ花芽分化を早くすることができるネイキッド培地を使用し、収穫時期や収量に及ぼす影響について調査する。							
3	調査研究期間 平成25年7月26日～平成26年2月20日							
4	調査研究の対象地域・場所 農林総合技術センター農業研修部ガラス温室							
5	調査研究方法の概要 (1) 栽培概況 ア 使用品種及び特性 かおり野：三重県で開発された極早生、多収性品種。炭そ病に強い。 イ 栽培体系							
月	7	8	9	10	11	12	1	2
		○---×----	△△---△--	□□□□□□□□	□□□□□□□□	□□□□□□□□	□□□□□□□□	□□□□□□□□
		7/26	8/9 8/30	9/5 9/17	9/27			
	○：採苗 ×：ランナー切り離し △：定植 □：収穫							
ウ	施肥実績 育苗中はオクダークを1株当たり1個施肥し、本ぼは10a当たり成分量で、N-22.7kg P-20.5kg K-21.2kgとなるようにNKエコロング、イチゴ配合、BM苦土重焼リン、珪酸カリを施肥した。							
エ	防除実績 うどんこ病を中心に2月20日まで15回防除を実施した。							
(2)	調査方法 ア 調査区の設定(株間20cm、千鳥二条植え) 試験区①(ネイキッド培地育苗の8/30定植)、試験区②(ネイキッド培地育苗の9/5定植)、慣行区(ポリポット育苗の9/17定植) ※ ネイキッド培地は土に繊維を混ぜ9cmポリポットの形に成型した物。							
イ	調査項目 (ア) 環境・生育調査 (培地温度、花芽分化程度、開花日、収穫開始日、クラウン径 草高、葉長、小葉長を調査) (イ) 収量調査 (果実重量) (ウ) 品質調査 (商品化率) (エ) 経営調査 (年内販売額及び育苗経費、労働時間)							

## 6 結果の概要、成果

### (1) 環境・生育調査

ア ネイキッド培地の地温はポリポット培地の地温より日中は平均で3℃以上、最大7.2℃低く（図1）、その結果花芽分化が早く、8月30日に定植が可能となった。

イ 草高、葉長など草勢には差がなかったが、試験区は慣行区より頂花房の収穫開始日が37日早くなった。しかし、開花にばらつきが見られた。

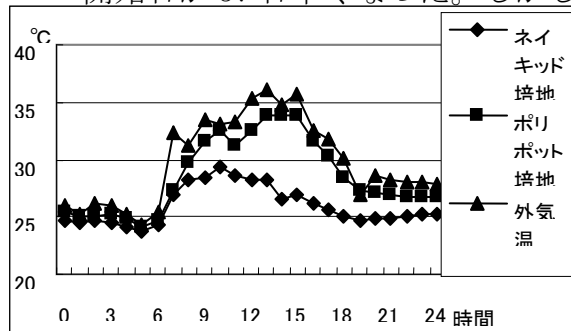


図1 培地温度（8月16日晴れ）

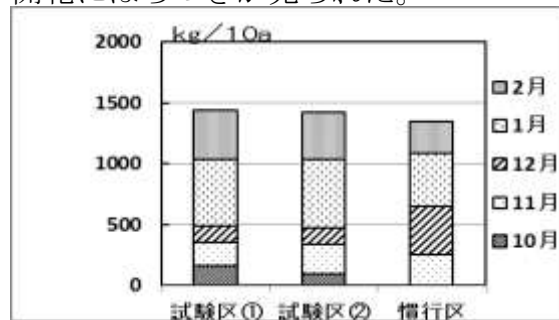


図2 月別収量（2月20日まで）

### (2) 収量調査

年内収量は試験区①が10a当たり477kg、試験区②が465kg、慣行区が570kgとなり、慣行区が1番多くなった。しかし、2月20日までの収量は、試験区①が慣行区より104kg多くなった（図2）。

### (3) 品質調査

商品化率は試験区①が80%、試験区②が71%、慣行区が74%となり、大きな差は見られなかった。

### (4) 経営調査

#### ア 年内販売額及び育苗経費

10a当たりの年内販売額は試験区①が988,364円、試験区②が861,091円、慣行区が795,200円となり、試験区①が慣行区より193,164円多くなった。

10a当たりの培地にかかる経費は試験区が145,528円多くかかった。

kg当たりの平均単価は試験区①は2,581円、試験区②は2,617円、慣行区は1,898円となった。

#### イ 労働時間

10a当たりの労働時間は育苗期の灌水作業においてネイキッド培地はポリポットの2倍の時間がかかったが、育苗期間が短いため、慣行区とほとんど差は見られなかった。労働時間全体では、慣行区が8時間多くなった。

## 7 今後の問題点

ネイキッド培地は培地費用がかかる、ポリポットのようなウオータースペースがないため灌水に2倍の時間がかかる、開花にばらつきが出る、果実が小さくなるという4つのデメリットが見られ、育苗期の灌水方法や育苗期間については検討する必要がある。

## 8 普及活動上の留意点

(1) 育苗中の灌水は、底面給水を行う等省力化が必要である。

(2) 開花が早くなるとミツバチの導入が高温時になるため、ミツバチの確保やミツバチの管理に留意が必要である。

(3) 高温時の開花になることから、スリップス類等害虫対策が必要である。